

# BUSINESS REPORT

# へんしもの

第39期 [平成21年4月1日～平成22年3月31日]



兼松エンジニアリング株式会社

証券コード：6402



代表取締役会長  
山本 吾一



代表取締役社長  
山口 隆士

## CONTENTS

- 1 株主の皆様へ
- 2 財務ハイライト
- 3 財務諸表
- 5 事業概要
- 7 製品・トピックス
- 10 会社情報

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第39期決算のご報告として「BUSINESS REPORT へんしも」を、お届けいたします。

## 営業の概況等

当社は、中期経営計画「リメイク3」の最終年度として、経営課題である「主力製品のレベルアップ」「循環型社会に対応した製品の開発」「コストダウン」「人材の育成」に取り組んでまいりました。

業績全般では、主力製品である強力吸引作業車・高圧洗浄車の受注・売上が大幅に落ち込んだこと等により、期初の計画には達することができず、前期に比べ受注高は1,103百万円減の4,236百万円（前期比20.7%減）、売上高は1,784百万円減の4,038百万円（前期比30.6%減）となりました。

損益につきましては、原価（原材料、加工費等）・販売費及び一般管理費等の低減対策も実施しましたが、営業損失が38百万円（前期は営業利益207百万円）、経常損失が6百万円（前期は経常利益248百万円）、当期純損失は68百万円（前期は当期純利益133百万円）と前期に比べ減収減益となりました。

配当につきましては、“安定的な配当の継続を行う”ことを基本方針としております。当期の業績は大幅な減収に伴いまして損失の計上となりましたが、総合的に判断した結果、期末配当金は1株当たり12円とさせていただきます。

当社は、新たな「中期経営計画（3ヶ年）」に基づき、「環境整備機器の総合メーカー」を目指します。第40期は今一度原点に戻り「技術の兼松」を再構築し、「顧客信頼度“ナンバー1”企業」となるべく取り組んで参ります。

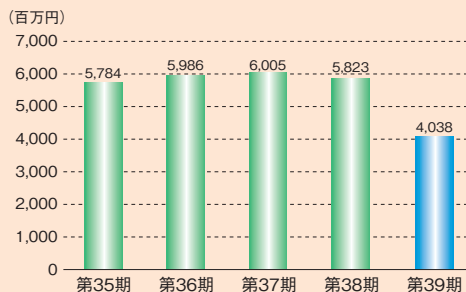
株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月



表紙に掲載している写真は、当社社員が実際の当社製品を1/32の縮尺で再現したオリジナル作品です。

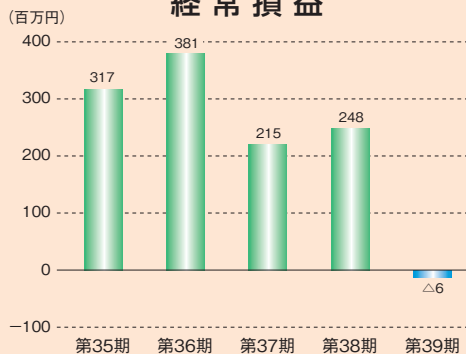
## 売上高



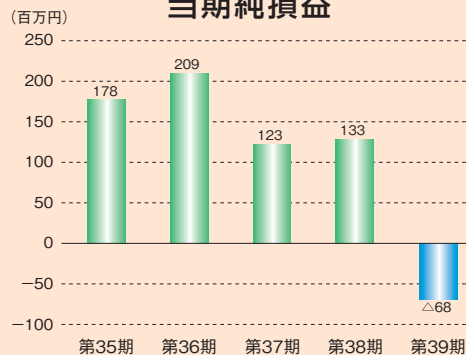
## 営業損益



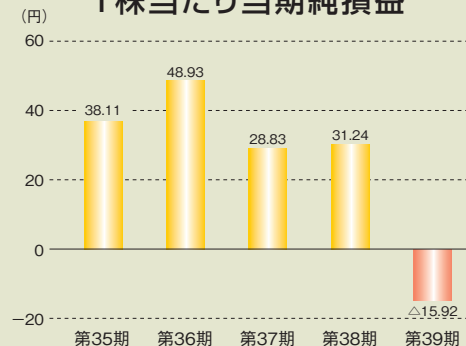
## 経常損益



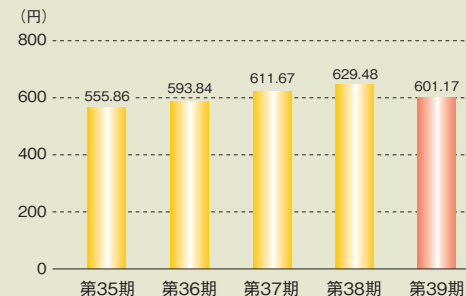
## 当期純損益



## 1株当たり当期純損益



## 1株当たり純資産



## ●貸借対照表

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成22年3月31日)	前 期 (平成21年3月31日)	増 減 (△印減)
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	2,177,128	2,923,919	△ 746,790
固定資産	2,116,450	2,178,789	△ 62,339
有形固定資産	1,831,465	1,865,320	△ 33,855
無形固定資産	7,661	7,648	13
投資その他の資産	277,323	305,820	△ 28,497
資産合計	4,293,579	5,102,709	△ 809,129
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	1,345,137	1,958,640	△ 613,502
固定負債	377,225	451,782	△ 74,556
負債合計	1,722,362	2,410,422	△ 688,059
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	2,574,948	2,694,349	△ 119,401
資本金	313,700	313,700	—
資本剰余金	356,021	356,021	—
利益剰余金	1,906,678	2,026,079	△ 119,401
自己株式	△ 1,451	△ 1,451	—
評価・換算差額等	△ 3,731	△ 2,062	△ 1,668
純資産合計	2,571,216	2,692,286	△ 121,070
負債純資産合計	4,293,579	5,102,709	△ 809,129

**資産の部**

総資産は、前期末に比べ809百万円減少し、4,293百万円となりました。これは主に、売上の減少等により売上債権が655百万円減少したことや、引当金の減少に伴い繰延税金資産が54百万円減少していることによるものであります。

**負債の部**

負債は、前期末に比べ688百万円減少し、1,722百万円となりました。これは主に、仕入債務の減少362百万円及び未払法人税等の減少87百万円等によるものであります。

**純資産の部**

純資産は、前期末に比べ121百万円減少し、2,571百万円となりました。これは主に、当期純損失68百万円の計上及び剰余金の配当51百万円等によるものであります。

(注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## ● 損益計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	前 期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	増 減 (△印減)
<b>売上高</b>	<b>4,038,977</b>	<b>5,823,495</b>	<b>△ 1,784,518</b>
売上原価	3,244,050	4,550,210	△ 1,306,159
割賦販売未実現利益戻入額	5,522	7,664	△ 2,142
割賦販売未実現利益繰入額	—	7,099	△ 7,099
売上総利益	800,449	1,273,850	△ 473,401
販売費及び一般管理費	839,211	1,066,164	△ 226,953
<b>営業損益</b>	<b>△ 38,762</b>	<b>207,686</b>	<b>△ 246,448</b>
営業外収益	34,477	42,692	△ 8,215
営業外費用	2,092	2,345	△ 252
<b>経常損益</b>	<b>△ 6,377</b>	<b>248,033</b>	<b>△ 254,410</b>
特別利益	11,528	4,864	6,663
特別損失	7,958	5,744	2,213
<b>税引前当期純損益</b>	<b>△ 2,807</b>	<b>247,153</b>	<b>△ 249,961</b>
法人税、住民税及び事業税	3,742	137,738	△ 133,995
過年度法人税額	7,784	—	7,784
法人税等調整額	53,742	△ 24,193	77,935
<b>当期純損益</b>	<b>△ 68,077</b>	<b>133,608</b>	<b>△ 201,685</b>

**売上高**

当社主力製品の強力吸引作業車が前期比38.2%減の2,268百万円、汚泥吸引作業車が68.6%減の68百万円、高圧洗浄車が14.3%減の518百万円となり当期売上高は、4,038百万円となりました。

**当期純損益**

部材調達先の見直し等購入部品費の低減、販売管理費の見直し等全社的なコストダウンに取り組んでおりますが、当期純損失68百万円を計上することとなりました。

## ● キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当 期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	前 期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>140,818</b>	337,047	△ 196,229
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△ 80,377</b>	△ 69,935	△ 10,442
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△ 107,199</b>	△ 104,930	△ 2,268
現金及び現金同等物に係る換算差額	<b>123</b>	792	△ 668
現金及び現金同等物の増減額	<b>△ 46,635</b>	162,973	△ 209,609
現金及び現金同等物の期首残高	<b>389,266</b>	226,292	162,973
現金及び現金同等物の期末残高	<b>342,630</b>	389,266	△ 46,635

(注)記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

当社は環境整備機器の製造販売を行っています。中でも産業廃棄物処理関係が主体であり、各種製品の特徴及び売上推移は、次のとおりです。

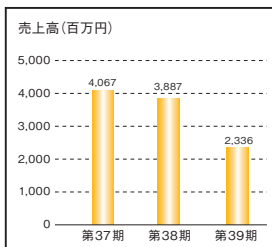
### ●強力吸引作業車・汚泥吸引作業車

国内では大きなシェアを占め、産業廃棄物の収集運搬に用いられるとともに、様々な付加機能により用途を広げています。



強力吸引作業車 (SME-04CVP)

- 廃棄物の収集運搬
- 高深度地下の汚泥回収
- 粉粒体の長距離吸引



超強力吸引作業車 (TT-13SWSKT)

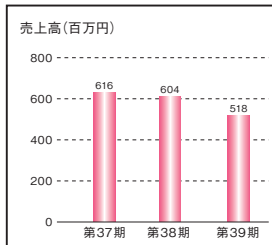
### ●高圧洗浄車・ビルメンテナンス用清掃車・定置型高圧洗浄機

高性能の実現と誰にでも使用できる使い易さで市場に浸透しています。強力吸引作業車につぐ当社第2の主力製品となっています。



高圧洗浄車(角タンク、後方リール)  
(JS-05S2320K)

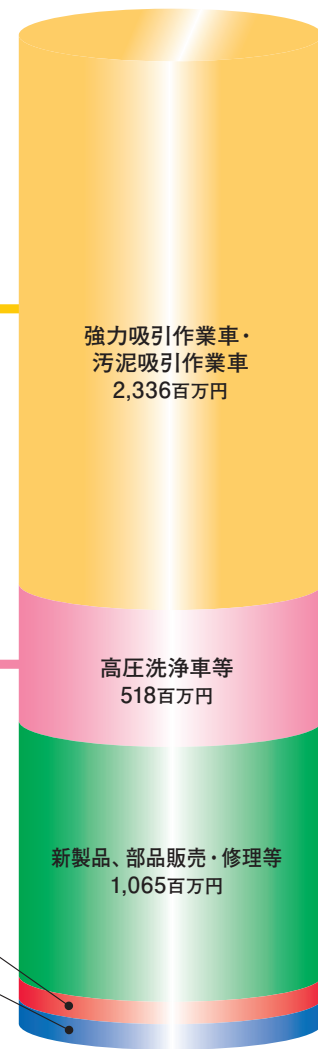
- 下水道管の洗浄
- ビル配管システムのメンテナンス
- 熱交換器の清掃



高圧洗浄車  
(JS-04W1825A)

粉粒体吸引・圧送車 54百万円

定置型吸引機 64百万円



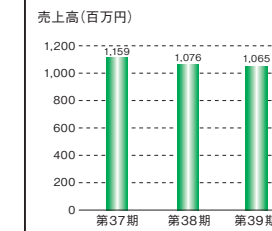
合計4,038百万円

### ●新製品 ●部品販売・修理等

新製品やその他の区分に属さない製品及び部品販売・修理などが含まれています。



トンネル清掃車 (TC-07WL3BC)



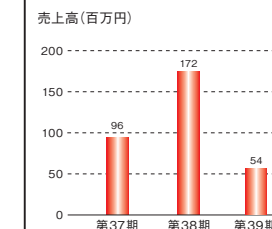
### ●粉粒体吸引・圧送車

吸引機能と加圧圧送機能を組み合わせ、粉粒体の長距離・高揚程輸送を行います。

- 石灰・セメント等粉体原料の回収・リサイクル
- 焼却灰の回収運搬



粉粒体吸引・圧送車 (SM-04DVF)



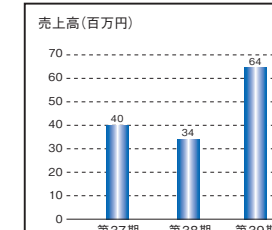
### ●定置型吸引機

当社技術の原点となる製品です。工場環境改善や省力化などに活用されています。

- 塗装ブラストの回収
- 工場内清掃
- フライアッシュの回収



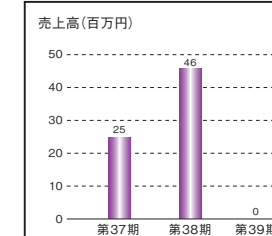
定置型吸引機 (EL-150SW)



### ●汚泥脱水機(車) (当期に売上はありませんでした)

多様な汚泥の脱水が可能で遠心脱水方式やベルトプレス他、ニーズに合った脱水システムが可能です。

- 建設汚泥の脱水・リサイクル
- 中間処理施設での脱水
- 生コン汚泥の脱水・リサイクル





## 乾式ブロワー搭載 超強力吸引作業車 誕生

### NSR-13CWJP



NSR-13CWJP

一昨年4月より本格的に販売開始した乾式吸引作業車(風量 $40\text{m}^3/\text{min}$ )は、顧客ニーズに合わせて新たに風量 $80\text{m}^3/\text{min}$ 級が加わりました。

この乾式吸引作業車はK&E独自の製品であり、当期は6台納車と順調に実績を積んでおります。



NS-13CVP



NS-04CVP

### NSRの特徴

- ブロワー循環水がいらないので、作業前後の給水・排水の手間が不要です。また、排水処理も不要で、環境にやさしいシステムです。
- ブロワー循環水切れによる焼き付き等、メンテナンスリスクが低減します。
- 連続運転時でも真空圧の低下がほとんどなく、安定した作業を維持できます。

# スーパーモービルに新機種「SMEシリーズ」が登場

## SME SERIES

吸引作業車における市街地での騒音対策として当社の主力製品であるスーパーモービル(SM)をベースにスーパーモービル・エボリューション(SME)を開発しました。

昨年10月よりデモ活動を開始し、2ヶ月で約50社にPRを行い、当期に5台納入しました。

今後もお客様の生の声を活かした製品開発、改良に取組み、売上拡大していきます。



SME-04BVP

### SMEの特徴

#### セミドライ運転を実現!

- 少量の冷却水で従来よりも大きな冷却効果を実現
- 冷却水温上昇に関わらず、高真空状態を維持可能

#### 低騒音化を実現!

- 消音型ACユニット開発により、約4dBの騒音低減

#### 3.0m<sup>3</sup>タンクを実現!

### 新開発オプション

#### エンジン回転数自動制御装置オートアクセル

- 吸引作業時以外は自動的にアイドル(待機状態)に
- 燃費向上、騒音値低減、作業員の負担軽減

#### 過積防止表示装置

- 計測誤差は約5%、過積載防止に効果を発揮



新型SME-04BVPによる側溝汚泥吸引風景



## K&E共栄会技術サービス講習会開催



【実技講習】

昨年10月にK&E共栄会\*技術サービス講習会を開催しました。全国から16業者21名参加のもと、吸引作業車と洗浄車の構造やフローの座学による理解と、操作方法及び付属品の使用方法を実技を交えて講習しました。今後もメンテナンス等の技術向上に向けて継続していきます。

※K&E共栄会…  
全国各地の当社指定  
サービス工場



【座学講習】

## 第24回高知県地場産業賞受賞(水循環式排水管清掃車)

高知県の地場産業の振興に貢献した製品や活動に贈られる高知県地場産業賞に、水循環式排水管清掃車が選ばれました。今年で24回目を迎える地場産業大賞は、県の経済を活性化させようと、高知県産業振興センターが毎年行っており、今年は過去最多の31件の応募がありました。



賞状【高知県産木材製】



水循環式排水管清掃車  
(CS-08DSPJ)

### 製品特徴

- 車両1台のため、省スペース・省エネ
- 作業人員が少なく、車両管理費などもコストダウン
- 使用する水量を大幅に削減

## ● 会社の概要

設立年月日 昭和46年9月1日  
 資本金 313,700,000円  
 従業員数 156名  
 事業内容 強力吸引作業車、高圧洗浄車等  
 環境整備機器の製造販売

## ● 役員

代表取締役会長 山本 吾一  
 代表取締役社長 山口 隆士  
 取締役 山本 琴一  
 常勤監査役 沖田 雅夫  
 社外監査役 西岡啓二郎  
 社外監査役 平井 雄一

## ● 事業所

本社 〒781-5101 高知市布師田3981-7  
 TEL (088) 845-5511 FAX (088) 845-5211  
 明見工場 〒783-0007 高知県南国市明見913-11  
 TEL (088) 864-1506 FAX (088) 864-1167  
 技術センター 〒783-0007 高知県南国市明見898-20  
 TEL (088) 864-1771 FAX (088) 864-2032  
 東日本支社  
 東京支店 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20-1 アンソレイエ・オオタ601号  
 TEL (03) 3667-7330 FAX (03) 3667-7333  
 東北・北海道支店 〒982-0012 仙台市太白区長町南4-12-27 NS泉崎2階  
 TEL (022) 248-2991 FAX (022) 248-2995  
 千歳営業所 〒066-0043 千歳市朝日町8-1206-51 釜田ビル2階  
 TEL (0123) 42-6661 FAX (0123) 42-6650  
 名古屋支店 〒452-0809 名古屋市西区花原町40  
 TEL (052) 501-3171 FAX (052) 501-3095  
 西日本支社  
 大阪支店 〒566-0064 大阪府摂津市鳥飼中2-2-43  
 TEL (072) 653-1136 FAX (072) 653-1350  
 中四国支店 〒739-0026 東広島市三永2-8-16 太田ビル1階  
 TEL (082) 426-2131 FAX (082) 426-2133  
 福岡支店 〒810-0001 福岡市中央区天神3-10-1 天神源氏ビル6階  
 TEL (092) 761-7761 FAX (092) 761-7760

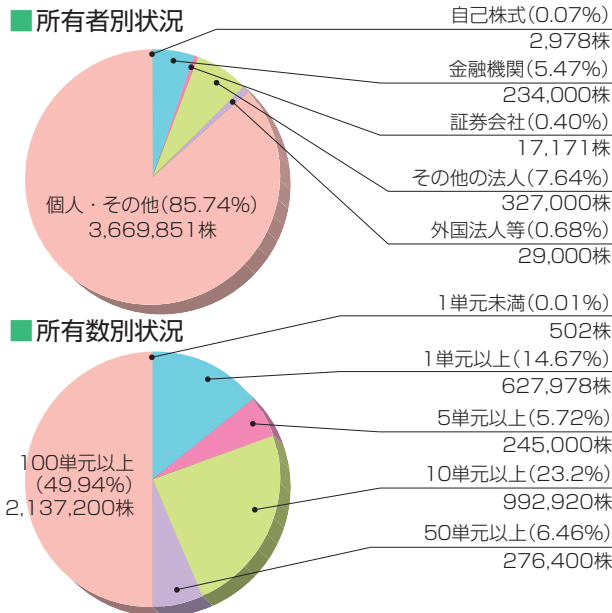
## ● 株式の状況

会社が発行する株式の総数 13,520,000株  
 発行済株式の総数 4,277,022株  
 (自己株式2,978株を除く)  
 株主数 545名

### 大株主

株主名	持株数	持株比率
兼松エンジニアリング従業員持株会	473,000株	11.05%
三谷浩溢	327,200株	7.64%
山本琴一	321,000株	7.50%
山口隆士	228,640株	5.34%
株式会社扇港鋼業所	224,000株	5.23%
山本吾一	195,200株	4.56%
柳川裕司	148,200株	3.46%
株式会社四国銀行	117,000株	2.73%
坂本洋介	102,960株	2.41%
板垣周	83,000株	1.94%

## ● 株式分布状況



## ●株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

### 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

### 株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告掲載新聞 日本経済新聞

上場証券取引所 大阪証券取引所市場第2部

 兼松エンジニアリング株式会社

KANEMATSU ENGINEERING CO.,LTD.

本社 高知市布師田3981番地7 TEL:(088)845-5511 FAX:(088)845-5211

<http://www.kanematsu-eng.jp/>

   
古紙配合率100%再生紙  
このビジネスレポートは、環境に配慮し、  
再生紙と大豆油インキを使用しております。